令和８年度中学校　英語

英語に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

◇「読むこと」に係る出題において、「必要な情報を読み取る」問題の３題で全国平均を上回った。複数の情報が含まれるまとまりのある内容を読み、書かれていることの全てではなく、読み手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを読み取る力があることがこの調査からわかる。

◆「聞くこと」に係る出題において、特に社会的な話題についての問題の聞き取りで、全国平均を下回った。社会的な話題について話を聞き、要点を捉えて「重要な情報は何か」を判断する力に課題がある。

「書くこと」に係る出題において、まとまりのある英文を書く問題では、特に「自分の考え」を書く問題が全国平均を下回っている。自分の気持ちや、考えを整理し簡単な語句でまとまりのある英文を書くことに課題がある。

指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

聞くことに関する事項

〇日頃の授業の中で、身近な話題から社会的な話題まで、教科書をベースに「要点を捉えて聞く」ことを技能として身につける必要がある。また、その中で「より重要な情報は何か」を判断する力も求められる。ただ聞くのではなく、聞きとるポイントについては、教師から生徒にアドバイスするなどし、習熟度による個別の指導も求められる。

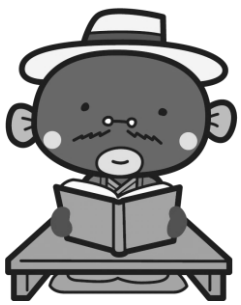
〔思考力、判断力、表現力等〕

書くこと

〇まとまりのある文を書くためには、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書く必要がある。「書くこと」を主体的に学習させるためには、個人の習熟度に合わせることも大切である。授業内で ICT（AI 添削）を活用しながら、個々の能力にあわせてスモールステップで向上させることが考えられる。また、考えや感想を述べる際は、読み手に伝わるよう意識することを日頃から指導し、自分の言いたいことに最もふさわしい表現ができる力を身につけさせたい。書く指導は「知識・技能」から「思考・判断・表現」に結びつけるまでに時間がかかるため、校内の英語科で共通理解し、中１からの継続的な指導が重要である。

話すこと

〇「話すこと」に係る出題では、１９の「社会的な話題に関して放送で聞いたことについて、自分の考えとその理由などを話す」内容の問題の正答率が全国と比較して低かった。授業でも、社会課題の単元や学校行事の後などにそのことについて、自分の考えとその理由をまとめて英語で話しあう機会を設け、社会的な話題を「自分ごと」として英語で表現する活動を発達段階に合わせて行うことがこの能力の育成には必要である。



我孫子市マスコットキャラクター
手賀沼のうなきちさん